

一つひとつのいのちに寄り添い、支え、まもる兵庫県社会福祉士会
～コロナを機にこれからの活動を展望する～
(兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画)

2021年4月1日

1. 趣旨・目的

兵庫県社会福祉士会は、1993年7月に結成し、今年28年目を迎えました。

本会では、2015年度に「兵庫県社会福祉士会・5ヵ年発展計画（第1期中期計画）」を策定し、本会の発展を中・長期的観点から取り組んできました。

その結果、生涯研修制度の充実とともに、会員数は1400名から1750名を超え、組織基盤の整備を進めることができました。

2020年度は第1期中期計画が最終年度を迎えるとともに、新型コロナウイルス感染拡大による影響を踏まえ、2021年度から2025年度を目標とする新たな「第2期中期計画」を策定します。

2. 「兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画」

- ①名称 「兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画」(2021年度～2025年度)
- ②策定 兵庫県社会福祉士会・組織力向上戦略会議
- ③委員 理事委員5名(谷口、中山、榎本、岸、中川)
公募委員6名(岡本、西川、乾、岸本、岡松、山岸)
- ④期間 2020年6月～2021年5月
- ⑥内容 会員アンケート及びワークショップ、パブリックコメントを通じて、幅広く、会員からの意見を聴取し、理事会の承認の上策定する。

⑦スケジュール

- 2020年4月 こうのとり通信にてアンケート募集(8月末)
- 9月 ワークショップ(2回)
- 12月 第1期中期計画の総括・第2期中期計画の検討
- 2021年2月 第2期中期計画(素案)の策定
- 4月 パブリックコメント
- 5月 第2期中期計画(理事会協議・承認)
- 6月 第2期中期計画の公表(総会資料)



3. 会員意見の集約

◎アンケートの実施(4月1日～8月31日)

こうのとり通信(春号)を通じ、会員アンケートを実施(回答者58名)

◎ワークショップの開催

9月16日 オンライン開催(7名参加)

9月27日 オンライン開催（8名参加）

◎理事会・理事委員長会議・組織力向上戦略会議における協議・検討

4. 重点課題（会員の意見による兵庫県社会福祉士会の課題における優先順位）

- ①社会福祉士の資質向上（生涯研修制度の充実、認定社会福祉士制度の普及・取得支援、研修に参加しやすい環境整備）
- ②会員の増加・退会者の防止（入会促進、組織率の向上）
- ③魅力ある会づくり（専門職団体との連携強化）
- ④地区ブロック活動の活性化（新入会員への支援）
- ④人材の発掘（地域共生社会に貢献できるSWの養成、
- ⑥地域貢献・社会貢献（SDGsに基づく地域貢献）
- ⑦会員へのサービス向上（会員特典の充実）
- ⑧災害支援（災害支援活動者への支援）
- ⑨財政基盤の強化（委託事業の拡大）
- ⑩組織のあり方・強化（事務局体制の強化）

5. 兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画（2021年度～2025年度）

「兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画（案）」・参考資料

「兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画・具体計画（案）」

6. パブリックコメント（意見募集）のお願い

兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画（案）に対するあなた様のご意見を別紙にて、**4月30日（金）まで**に本会まで郵送またはFAX、メールにて送付をお願いします。

あなた様からいただいた貴重なご意見を踏まえ、「兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画」を策定し、6月26日（土）の予算総会にて報告させていただきます。

7. 送付先

兵庫県社会福祉士会・事務局

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2-1-1 福祉センター5階

TEL078-265-1330 FAX078-265-1340

E-Mail : entry@hacsw.or.jp



兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画（案）に対する意見募集

氏名	・	会員番号	
	匿名		

◎兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画に対するご意見をお願いします。

項目	あなたのご意見

◎パブリックコメント（意見募集）にご協力ありがとうございました。

◎**4月30日（金）まで**に、本会まで郵送またはFAX、メールにて送付をお願いします。

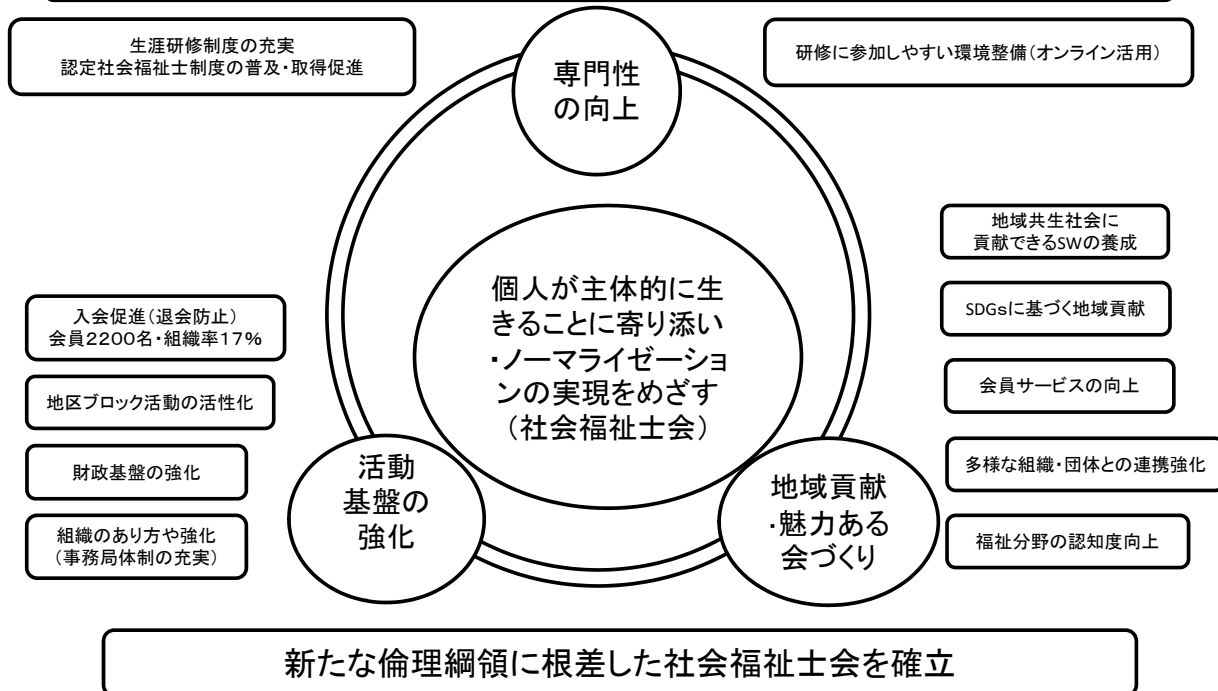
FAX（078-265-1340）

E-Mail：entry@hacsw.or.jp

兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画

個人が主体的に生きることに関わり添い・ノーマライゼーションの実現をめざす
～コロナを機にこれからの展望を描く～

2025年 兵庫県社会福祉士会の姿(ビジョン)



兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画

個人が主体的に生きることに関わり添い・ノーマライゼーションの実現をめざす
～コロナを機にこれからの展望を描く～

1. ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点に基づく専門性の向上

- 生涯研修制度の充実
- 認定社会福祉士制度の普及及び取得促進
- 研修に参加しやすい環境整備

2. 地域貢献・魅力ある会づくり

- 地域共生社会に貢献できるSWの養成
- SDGs(持続可能な開発目標)に基づく地域貢献
- 会員のサービス向上
- 多様な組織・団体との連携強化
- 福祉分野の認知度向上

3. 活動基盤の強化

- 入会促進・退会防止
- 地区ブロック活動の活性化
- 財政基盤の強化
- 組織のあり方や強化

兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画

参 考 資 料

- 第1期中期計画の総括
- 第2期中期計画の趣旨・目的
- 会員・委員会等の意見による兵庫県社会福祉士会の課題における優先順位
- 会員アンケート(主な意見)
- ワークショップ(主な意見)
- 会員の状況(入会状況)
- 会員の状況(入会者数・退会者数)
- 財政状況(決算状況)

兵庫県社会福祉士会2020・第1期中期計画(総括)

～兵庫県社会福祉士会の夢を描こう～

1. 第1期中期計画(2016～2020年度)の総括

- 会員数は5年間で1396名から1774名へと増加(378名)したが、目標(2000名)には達しなかった。本会の課題を明らかにするとともに、魅力ある会づくりや会員サービスの向上等を通じて、入会者を増やすとともに、退会者を減らす取り組みを強化する必要。(組織率は15%を維持)
- 地区ブロックの活性化を図り、会員に身近な活動の場を提供するとともに、地域共生社会の実現やSDGS(持続可能な開発目標)に基づく活動を地域に展開していく必要。
- 本会が取り組むべき課題を整理したが、項目が多すぎたため、未着手の項目もあった。改めて重点的な課題を明確にして目標を立てていくことが必要。
- 専門性の向上のため、認証研修の拡充や、スーパービジョン体制の充実など認定社会福祉士の取得を支援していく取り組みや広報活動が重要。
- 認証研修以外の多様で専門的な研修を開発していく必要。
- オンラインによる研修を開発し、全国に向けて受講者を増やす取り組みやハイブリッド式の導入により、受講者の選択肢を増やす取り組みが有効。
- 居住支援、災害支援、権利擁護の推進など、地域貢献・社会貢献を通じて、県民・市民に信頼され、支持される会へ、さらに発展させていく必要。
- SNS等を活用して、本会の活動を積極的にPRしていく必要。
- ぱあとなあ兵庫の活動強化や各委員会活動に参画する会員を増やし、時代に応じた専門性の高い活動を展開していく必要。
- 委託事業や収益事業、自主事業の増大に伴い、事務局体制の強化が必要。
- 新たな倫理綱領のもと、コロナを機に新たな本会の活動を展開していく必要。

兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画

個人が主体的に生きることに寄り添い・ノーマライゼーションの実現をめざす
～コロナを機にこれからの展望を描く～

主旨・目的

- 兵庫県社会福祉士会は、1993年7月に結成し、今年28年目を迎えた。
- この間、2009年4月に一般社団法人格を取得するとともに、会員数も1770名を超える大きな組織へと発展、今日では17の委員会及び相談支援センター「ここねっと兵庫」、生涯研修センター等を設置している。
- また、「まちかど相談会」や「ソーシャルワーカーデー」による広報・相談活動とともに各種研修、セミナー等を通じて地区ブロック活動を展開し、県民の福祉向上に寄与し、県民や行政等から本会への期待は年々高まってきている。

「兵庫県社会福祉士会・第1期中期計画」(2016～2020年)

○本会の発展を中期的観点から取り組むため「兵庫県社会福祉士会・第2期中期計画」の策定(2021～2025年)に取り組む。

兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画

個人が主体的に生きることに寄り添い・ノーマライゼーションの実現をめざす
～コロナを機にこれからの展望を描く～

2. 第2期中期計画(2021～2025年度)のビジョン

○兵庫県社会福祉士会は、高齢者・障がい者・児童等のすべての人々が個人として主体的に生きることに寄り添うとともに、ノーマライゼーションの実現をめざす専門職団体として、県民・市民に信頼される職能団体を目指し、新たな倫理綱領のもと、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点に基づく専門性の向上を図り、地域共生社会の実現とSDGs(持続可能な開発目標)に基づく活動を地域社会へ展開する。

○新型コロナウイルスの感染拡大が社会へ深刻な影響を与えるなか、新たに生活困窮に陥る方々を支援するとともに、本会の活動基盤の強化を図り、コロナを機に時代に応じた本会の活動を目指す。

○このため、第1期中期計画(2016～2020年度)を総括するとともに、新たに第2期中期計画(2021～2025年度)を策定し、本会の活動を発展させる。

3. 第2期中期計画の目標

「個人が主体的に生きることに寄り添い・ノーマライゼーションの実現をめざす」

- ①ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点に基づく専門性の向上
- ②地域貢献・魅力ある会づくり
- ③活動基盤の強化

兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画

会員アンケート(58名)

ワークショップ(15名)

理事会
理事・委員長会
組織力向上戦略会議



◎会員・委員会等の意見による兵庫県社会福祉士会の課題における優先順位

【第2期中期計画】

- ① 社会福祉士の資質向上 (55%)
- ② 会員の増加・退会者の防止 (36%)
- ③ 魅力ある会づくり (35%)
- ④ 地区ブロック活動の活性化 (33%)
- ④ 人材の発掘 (33%)
- ⑥ 地域貢献・社会貢献 (29%)
- ⑦ 会員へのサービス向上 (28%)
- ⑧ 災害支援 (24%)
- ⑨ 財政基盤の強化 (22%)
- ⑩ 組織のあり方・強化 (21%)

【第1期中期計画】

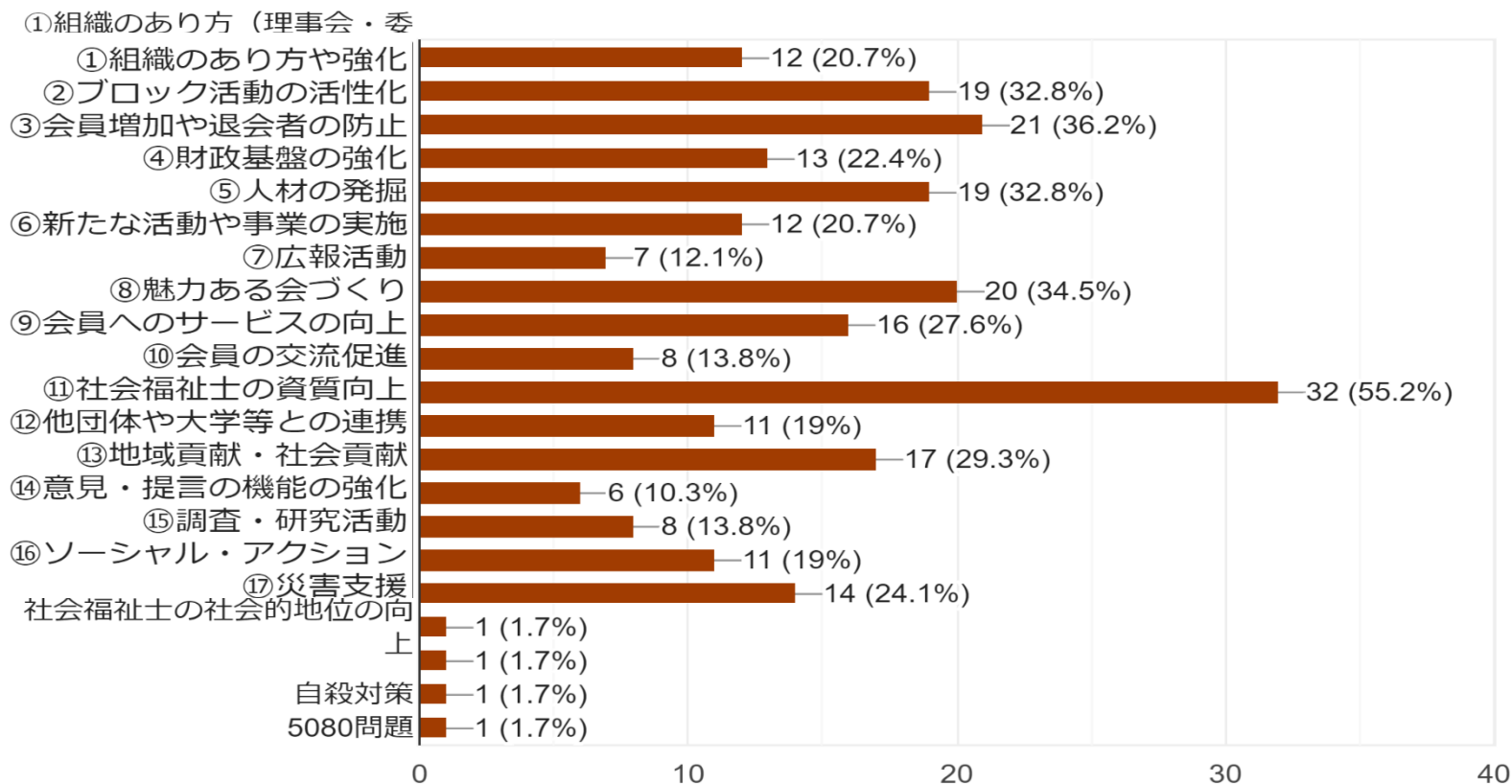
- ① 社会福祉士の資質向上 (52%)
- ② 魅力ある会づくり (40%)
- ③ 会員の増加・退会者の防止 (37%)
- ④ 地域貢献・社会貢献 (35%)
- ⑤ 地区ブロック活動の活性化 (31%)
- ⑥ 会員へのサービス向上 (26%)
- ⑦ 組織のあり方・強化 (24%)
- ⑧ 広報活動の充実 (19%)
- ⑨ 事務局体制の強化 (18%)

兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画

◎会員アンケート結果(58名複数回答) 2020年4月～8月実施

Q1：あなたが感じる兵庫県社会福祉士会が取り...た場合、具体的にお書きください。(複数回答)

58件の回答



兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画

◎会員アンケート(主な意見)58名

- 生涯研修制度の充実(児童や虐待、貧困、ひきこもり、自殺防止等各種研修)
- 地域共生社会を担うソーシャルワーカーの養成(人材育成、スーパービジョン)
- オンラインの積極的な活用
- 会員の増加で組織の活性化を図る、入会の促進を図る
- WITHコロナ時代に社会福祉士会が果たすべき役割を考える
- 地区ブロックの充実(権限・財源の移譲)
- 身近な場所で、カフェやミニ勉強会など気軽に集まる場所をつくる
- 社会的認知度・地位の向上
- 地域の課題を解決できるように組織化が必要、地域貢献(無料相談会)
- ソーシャルアクション、新たな活動や創造的な活動を行うべき
- 業務拡大や業務独占をめざすべき
- 災害支援の強化(兵庫県版DWAT、支援体制の構築、被災地支援募金)
- 広報の充実(イベント、駅やテレビ等)
- 会費の値下げ、入会のメリット(受講費の差別化、会員限定の研修等)
- 大学等との連携

兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画

◎ワークショップ(主な意見)15名・2020年9月16日・27日実施

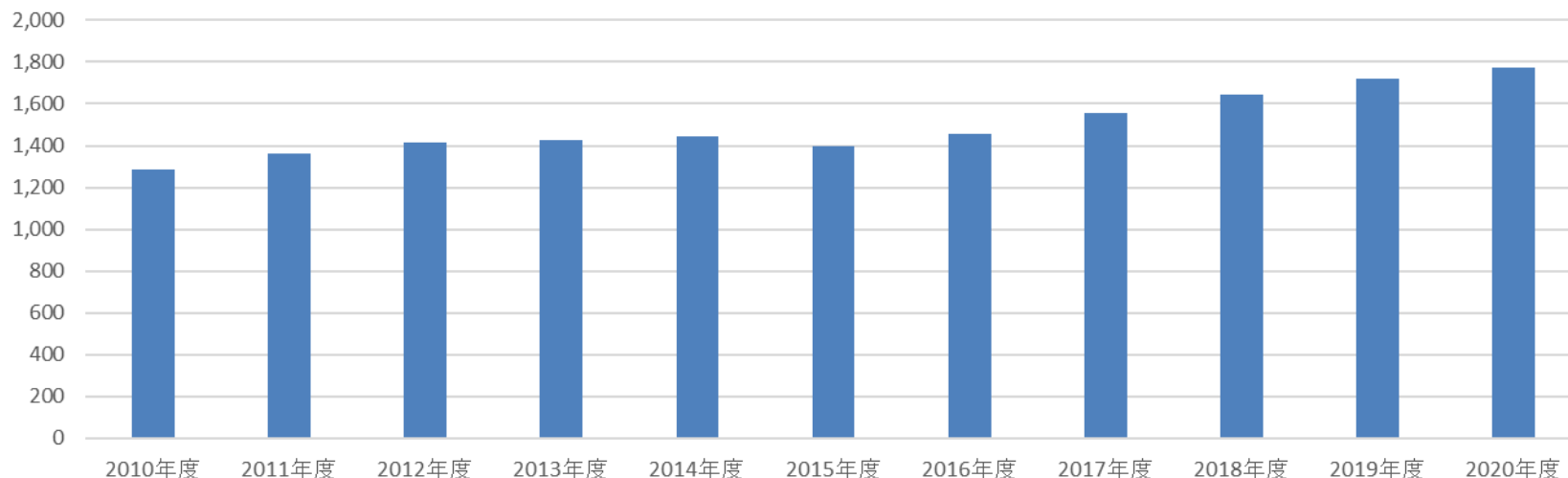
- 入会のハードルをいかに下げるか、若者世代の入会を増やせないか
- 会の活動や面白さが伝わっていないのではないか
- 資格研修は魅力であるが、認定社会福祉士はつくられたが、目指す人が少ない
- 異業種の方やいろんな方と出会って話ができるのはメリットである
- 県域を越えて活動を広げていくべき
- 通信教育やリモート研修を充実させていくべき
- 福祉現場はストレスが大きい、ストレスケアやコーチングなど取り入れては
- 気軽に参加できる場がほしい(集い場の拡充、居場所づくり)
- 新型コロナの影響で気軽に集まるのが難しい(オンラインの活用)
- 公的な委員推薦は、社会福祉士会に入会しているから、安心して推薦できる
- 地区ブロックの活性化や会員サービスの向上を図るべき
- 人材の発掘や大学等との交流を図るべき
- SDGsへの活動を目標に入れるべき
- 新たな活動に取り組むべき(地域への専門職派遣や未成年後見等)
- 教育分野へのソーシャルワークの理解を深めていくべき(SSW)
- 様々な領域とのプラットフォーム機能が必要
- 災害支援を充実させるべき(兵庫県版DWATの創設、災害活動支援者の養成等)

兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画

会員の状況(入会状況)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
入会者数	128	156	123	78	116	117	133	153	153	136	87
退会者数	57	97	76	93	73	87	76	65	65	80	60
差異	71	59	47	-15	43	30	57	88	88	56	27
会員数(各3月末)	1,287	1,364	1,413	1,425	1,442	1,396	1,453	1,556	1,644	1,719	1,774

会員数(各3月末)



○2010年度～2015年度で109人増加(年平均18人の増加)

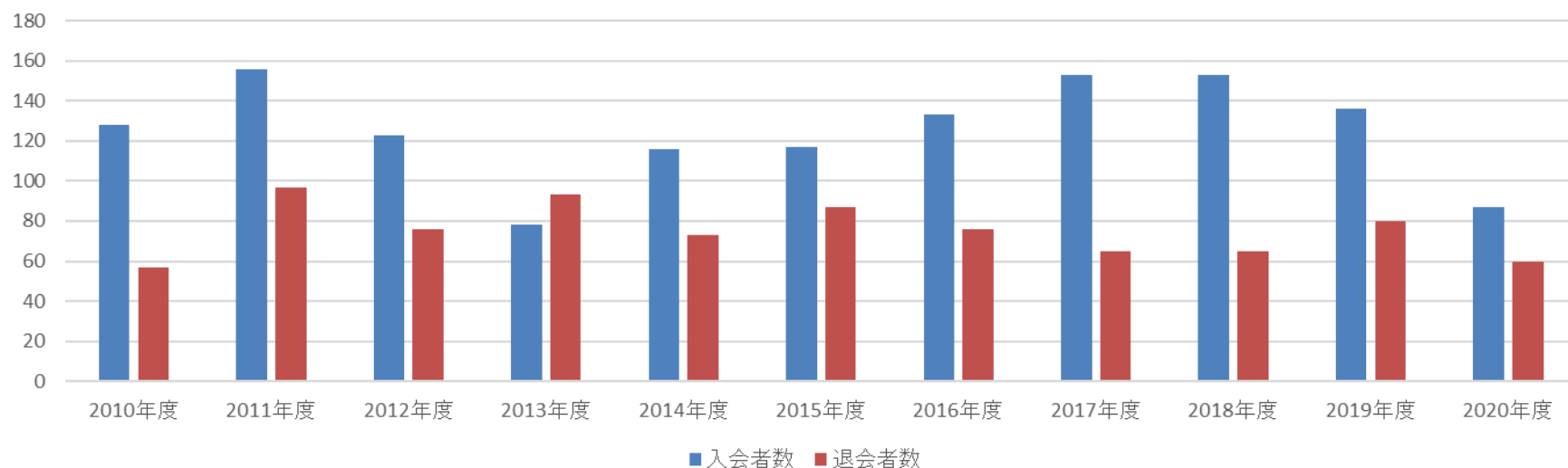
○2016年度～2020年度で378人増加(年平均76人の増加)

○2016年度～2019年度は入会キャンペーン等を実施し、効果が認められる。

兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画

会員の状況(入会者数・退会者数)

入会者数・退会者数



○直近の5年間、入会者は増加傾向・退会者は減少傾向にある。

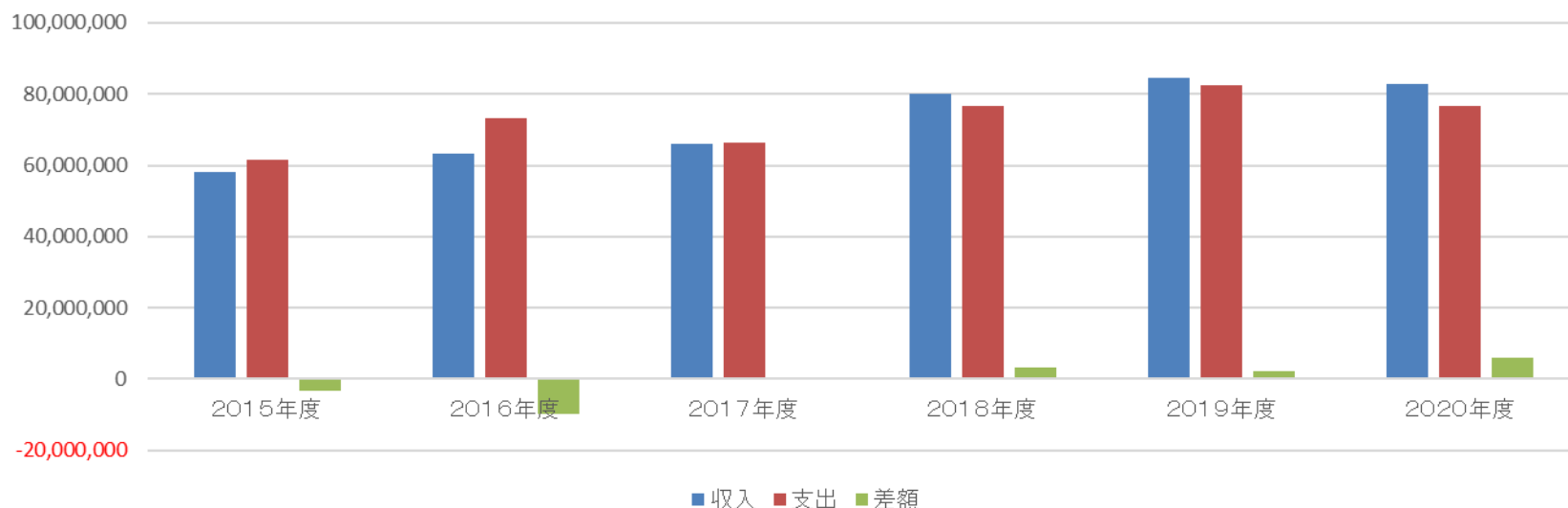
○入会状況:2010年度～2015年度は78～156人(2011年度は156人)
2016年度～2019年度は133～153人(2020年度は87人)

○退会状況:2010年度～2015年度は57～97人
2016年度～2020年度は65～80人(2020年度は60人・見込み)

兵庫県社会福祉士会2025・第2期中期計画

財政状況(決算状況)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度(補正)
収入	58,148	63,414	65,956	80,117	84,501	82,653
支出	61,479	73,193	66,239	76,772	82,455	76,646
差額	-3,331	-9,778	-283	3,345	2,046	6,007



○2015年度～2017年度まで赤字(約1300万円)

○2018年度～2020年度は黒字化(約1100万円)

○財政の構造改革(事業費・管理費の削減と委託事業の拡大・会費等の見直し)

兵庫県社会福祉士会 第2期中期計画・具体計画(2021年度～2025年度)

基本指針	内容	事業項目	5年後(2025年)の目標	2020年度	2021年度(目標)
(1) 専門性の向上	生涯研修制度の充実	基礎研修制度の運営確立	オンライン化(eラーニング、ハイブリッド式) 基礎研修修了生の増(各年度50名) OB会の組織化(第8～12期生) 基礎研修講師・スタッフの確保(30名)	eラーニングの活用、オンラインの活用 基礎研修修了生(61名) OB会(第7期生) 基礎研修講師・スタッフ(30名)	eラーニングの活用、オンラインの活用 基礎研修修了生(50名) OB会(第8期生) 基礎研修講師・スタッフ(30名)
		スーパービジョン体制の充実	スーパーバイザーの確保(40名) スーパーバイザーへの支援(50名) スーパーバイザーへの支援 グループスーパービジョンの導入	24名 25名 スーパービジョンⅡ研修の開催	28名 30名 スーパービジョンⅡ研修の継続 グループスーパービジョンの検討
	認定社会福祉士制度の普及及び取得支援	認定社会福祉士制度の普及及び取得支援	認定社会福祉士制度のPR 認証研修の拡充(医療・自殺防止) 認証研修のオンライン化	4分野(高齢・児童・地域・障害・災害) 共通(スーパービジョンⅡ)	認定社会福祉士制度のPRの検討 認証研修の検討(医療・自殺防止) オンライン化の検討
		認定社会福祉士の取得支援	認定社会福祉士取得者の増(200名)	認定社会福祉士(40名) 共通研修(SVⅡ) スーパーバイザー連絡会	認定社会福祉士(70名) 共通研修(SVⅡ) スーパーバイザー連絡会
研修に参加しやすい環境整備	研修のオンライン化 研修メニューの充実	可能な研修はオンラインを導入 基礎研修以外の新たな研修の開発 このとりゼミナールの充実	一部の研修にオンラインを活用	オンラインの拡大 新たな研修の検討 ハイブリッド化の検討 研修クーポンの検討 新たな研修の検討	
	研修サポート体制の充実 身近な地区ブロックでの開催	研修クーポンの発行 多様な研修、新たな研修メニューの検討	オンラインによるゼミの開催		
(2) 地域貢献・魅力ある会づくり	地域共生社会に貢献できるSWの養成	地域共生社会を実践できる研修の構築 新カリキュラムに応じた実習のあり方	新たな研修プログラムの開発・実施 大学やソ教連との連携強化 新たな実習プログラムの開発 実習指導者の質的向上(フォローアップ)	養成校との連絡会 実習教育支援委員会 実習教育支援者研修(中止)	新たな研修プログラムの検討 養成校との連絡会 新たな実習プログラムの検討 実習教育支援者研修(再開)
	SDGsに基づく地域貢献	「貧困をなくそう」に対する貢献	生活困窮者、ホームレス等の人への支援 新型コロナの影響を受けた人への支援	生活困窮者支援委員会	
		「すべての人に健康と福祉を」に対する貢献	制度のはざまにある人への支援 ここねっと兵庫の相談拡充 なんでも相談会の継続 まちかど相談会の継続 虐待対応への支援(高齢者・障がい・児童) 権利擁護の推進(成年後見・未成年後見) 意思決定支援の普及・啓発 新たな地域貢献の検討(仮称:福祉テラス) 災害支援の充実(登録制度・兵庫県版DWATの創設)	更生支援委員会 ここねっと兵庫の相談 なんでも相談会(月1回) まちかど相談会の中止 虐待対応委員会 未成年後見人養成研修 意思決定支援研修	ここねっと兵庫の相談 なんでも相談会(月1回) まちかど相談会の再開 児童虐待の検討 未成年後見人養成研修の継続 意思決定支援研修の継続 新たな地域貢献の検討(仮称:福祉テラス) 登録制度、災害支援マニュアルの策定 居住支援活動の実施
	会員サービスの向上	会員特典の充実	eラーニングの活用(無償提供) 会員限定サービス(研修・イベント)の提供 会員同士の交流の場づくり 無料職業紹介事業の検討 支援者へのアドバイザー制度の検討 会員のためのよろず相談コーナーの検討 新入会者向け説明会の開催 オリジナルグッズの活用 法人会員制度の充実 会費割引制度の検討	基礎研修Ⅰへの導入、広報 交流会(納涼会、忘年会、懇親会)	eラーニングの活用の拡大 会員限定サービス(研修・イベント)の検討 交流会(納涼会、忘年会、懇親会) 無料職業紹介事業の検討 支援者へのアドバイザー制度の検討 会員のためのよろず相談コーナーの検討 はじめのいっぽりの再開 オリジナルグッズの検討 法人会員(5法人) 会費割引制度の検討
会員表彰制度の創設 30周年記念事業の推進		長期入会者表彰(10年・20年・30年) 記念誌作成・記念行事・記念式典	はじめのいっぽりの中止 オリジナルファイルの作成 法人会員(4法人)	記念誌作成会議の継続	
多様な組織・団体との連携強化	SW関連5団体との連携強化	ソーシャルワーカーデーの開催	ソーシャルワーカーデー(中止)	ソーシャルワーカーデー(再開)	
	弁護士会・司法書士会等との連携 近畿ブロックとの連携 当事者組織との連携 他業種・多職種との連携	専門職団体との連携強化 近畿ブロック府県士会との連携強化 当事者組織への支援や連絡会 他業種・多職種との協働事業	代表者会議/5団体合同研修 行政書士会との協定 滋賀大会・バリアフリー展(中止)	代表者会議/5団体合同研修 和歌山大会への協力・バリアフリー展	

兵庫県社会福祉士会 第2期中期計画・具体計画(2021年度～2025年度)

基本指針	内容	事業項目	5年後(2025年)の目標	2020年度	2021年度(目標)
	福祉分野の認知度向上	情報発信力の強化 福祉教育・人権啓発の推進 政策提言 調査研究活動の充実 ソーシャルアクションの展開 業務独占・業務拡大	SNS、ホームページ等を活用した情報発信 高校生・中学生へのアプローチ 政策提言等を行う仕組みの検討 調査研究活動の充実 意見書の発信や官公庁への働きかけ 議員懇談会等の実施	広報誌(中止) 県への予算要望 実践報告会の開催 意見書の提出	広報誌の発行(再開) 高校生・中学生へのアプローチの検討 提言等を行う仕組みの検討 実践報告会の開催 議員懇談会等の検討
(3) 活動基盤の強化	入会促進(退会者の防止)	会員数の増加 入会促進(年間140名以上) 退会防止策(年間60名未満)	会員数2200名(組織率17%)を目指す 入会者の促進(年間140名以上) 入会促進キャンペーン 青年部会の組織化 合格者へのアプローチ 退会者の防止(年間60名未満)	会員数1774名(組織率15%) 入会者数(86名) 入会促進キャンペーン(中止) 合格祝賀会(中止) 退会者(60名)見込み	会員数(1850名) 140名以上 入会促進キャンペーン(再開) 青年部会の検討 新たな方策の検討(食事以外) 退会者(60名未満)
	地区ブロックの活性化	助成制度の見直し 新入会員への支援 地域での顔の見える関係づくり 地区ブロック同士の研修・交流促進 新たな活動の展開	助成額の増額 新入会員向けのイベント(説明会、歓迎会) 集い場の拡大 兵庫社会福祉セミナーや合同研修等の開催 地域の特色を踏まえた活動の展開	集い場(中止) 兵庫社会福祉セミナー(中止)	新入会員向けのイベント(説明会、歓迎会)の検討 集い場(再開) 兵庫社会福祉セミナー(神戸)
	財政基盤の強化	委託事業の拡大 収益事業の拡大 自主事業の拡大 ICT活用によるコスト削減	防災に関する事業委託(県) 地域包括に関する研修委託(県) 高齢者・障害者虐待に関する研修委託(県・市) 医療的ケア児に関する研修委託(県) 相談事業の委託(JR) 障害者差別解消相談センターへの派遣(県) 新たな委託事業の拡大(人材派遣等の検討) 国家試験対策講座の充実 大学等での対策講座(5ヶ所) 自主ゼミの拡大(地区ブロックの拡大) オンラインの活用(オンライン研修等の推進) 人材バンクの設置(登録制度・講師派遣等) オンラインの活用(オンライン会議等の推進)	防災に関する事業委託(県) 地域包括に関する研修委託(県) 高齢者・障害者虐待に関する研修委託(県・市) 医療的ケア児に関する研修委託(県) 相談事業の委託(JR) 障害者差別解消相談センターへの派遣(県) 国家試験対策のオンライン化 対策講座の拡大(3ヶ所) 自主ゼミ(阪神ブロック) オンラインの活用(オンライン研修等の推進) オンラインの活用(オンライン会議等の推進)	防災に関する事業委託(県) 地域包括に関する研修委託(県) 高齢者・障害者虐待に関する研修委託(県・市) 医療的ケア児に関する研修委託(県) 相談事業の委託(JR) 障害者差別解消相談センターへの派遣(県) 新たな委託事業の拡大(人材派遣等の検討) 国家試験対策のオンライン化 対策講座の拡大(3ヶ所) 自主ゼミ(阪神ブロック+他)の拡大 オンラインの活用(オンライン研修等の推進) 人材バンクの検討 オンラインの活用(オンライン会議等の推進)
	組織のあり方や強化	事務局体制の充実 新たな組織のあり方の検討 各委員会活動の充実(会員の2割) ぱあとなあ兵庫の強化 公益性の向上	事務局体制の強化(事務局員の増) 処遇面の改善 顧問弁護士の配置 代議員制度の検討 委員会の参加者数の増(のべ340名⇒550名) 500名⇒700名 公益社団法人化の検討	委員会の参加者数の増(のべ340名) 500名	顧問弁護士の配置 代議員制度の検討 委員会の参加者数の増(のべ370名) 540名 公益社団法人化の検討